

## 市立奈良病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床試験を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	「診療放射線技師による血管確保技術の現状：臨床現場における静脈路確保に関する実態調査」
当院の研究責任者	所 属：放射線室 責任者：前原 健吾
他の研究機関および各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	<p>近年、医療現場における「働き方改革」が医療界全体の課題となっています。その中心的な対策の一つとして、多職種間での業務分担であるタスクシフト・タスクシェアの推進が挙げられ、医師以外の医療職種による臨床業務の補完が重要視されています。こうした中、診療放射線技師も従来の撮影・照射業務にとどまらず、より広範な役割を担うことが期待され、とりわけ、CT や MRI の造影剤、RI 薬剤の投与のための静脈路確保行為（いわゆる血管確保）は、これまで主に看護師や医師が実施してきたが、検査全体のマネジメントを担う診療放射線技師がこの行為を行うことにより、医師の負担軽減、検査の効率化、安全性向上が期待されています。</p> <p>診療放射線技師においても、2021 年 10 月に診療放射線技師法が一部改正され、今まで医師または医師の指示を受けた看護師のみが行っていた CT や MRI の造影剤、RI 薬剤の投与のための静脈路確保及び投与行為を、告示研修（令和 3 年厚生労働省告示第 273 号研修）を受けた診療放射線技師も行えるようになりました。この法的整備は、放射線診療の質の向上や検査の効率化、チーム医療の推進に資するものであり、今後さらにその役割の拡大が期待され、当院においても造影剤、RI 薬剤の投与のための静脈路確保行為を実施しています。一方で、診療放射線技師による血管確保技術について、医療現場での実施状況や習熟度、教育体制、実施上の課題など、十分なデータは整備されていないのが現状です。特に血管選択、穿刺技術など、安全で確実な技術の実践には一定の経験と教育が求められるものですが、実際の技術水準や実施体制には各モダリティの穿刺状況や技師の経験年数でばらつきがあるのではと考えています。</p> <p>そこで今回我々は、この研究で当院における診療放射線技師による血管確保技術の現状と課題を明らかにし、臨床現場における静脈路確保の実施状況について調査を行うことを目的としています。</p>
調査データの該当期間	2023 年 9 月から 2025 年 6 月まで

<p>本研究の対象及び方法 (使用する試料等)</p>	<p>I.調査対象期間 2023年9月～2025年6月</p> <p>II.調査対象 調査期間中のCT、MRI、RI、DIP検査で造影剤・RI薬剤を注入するために実施した静脈路確保行為</p> <p>IV.検討項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・穿刺状況をカテゴリー別に評価していく。穿刺割合、穿刺針サイズ割合、選択穿刺上肢(左右)の割合、穿刺静脈の割合。</li> <li>・調査期間中に穿刺1回目が失敗した静脈路確保行為を対象に、カテゴリー別に穿刺に失敗した要因を評価していく。患者性別、穿刺針サイズ、静脈路の視認・触知の可否、穿刺静脈、失敗の原因。また、技師経験値別でも評価を行う。</li> </ul>
<p>試料・情報の 他の機関への提供</p>	<p>なし</p>
<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>収集した情報は、名前など患者様を特定できる情報は除いて匿名化いたしますので個人が特定できる情報が外に漏れる可能性はございません。また、研究成果が学会や学術雑誌などで発表される予定ですが、発表内容に個人が特定できる情報は一切含まれません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>TEL：0742-24-1251 担当者：前原 健吾</p>
<p>備考</p>	<p>本研究は過去に施行された検査を後ろ向きに検討するのみであり、患者様に新たな検査や費用の負担はありません。また研究の対象となる患者様に対する謝礼もありません。上記の研究対象に該当する、該当するかもしれない患者様で、ご自身の検査結果に対して本研究への使用をご承諾いただけない場合には、市立奈良病院 放射線室までご連絡ください。</p>